

公務災害防止事業の推進

「安全管理セミナー」及び「S-KYT 研修(2時間コース)」を実施して

宮崎県市町村総合事務組合

1 宮崎県市町村総合事務組合の概要

当組合は、宮崎県市町村会に事務所を置いていた「町村消防補償等組合」、「町村職員退職手当組合」、「町村非常勤職員公務災害補償等組合」、「町村交通災害共済組合」の4組合と町村議会議長会事務局内に事務所を置く「町村議会議員公務災害補償等組合」を発展的に解散し、各事業の総合的な運営により事務効率の向上を図るべく「宮崎県市町村総合事務組合」として、平成元年7月1日に設立されました。総合事務組合としては九州では沖縄に次いで2番目、全国でも9番目に発足した組織です。

その後、市町村合併に伴い組織の名称を「宮崎県市町村総合事務組合」と改称し、現在5市17町村を構成団体とし、消防団員等公務災害補償事務など11の事務を共同処理しております。

2 安全管理セミナー及びS-KYT研修の開催に至った経緯

消防団員の活動内容が消火活動はもとより訓練や地域に密着した活動等広範囲に拡大したことなどを背景に、災害の発生件数は年々増加傾向にありました。

そこで、当組合では平成12年度以降、消防団員の安全と健康を守るための手法等について団員に周知すべく、健康管理講習会5回、健康づくりセミナー2回、S-KYT研修11回を県内の18市町村で開催してまいりました。

今回は、安全を担う立場にある消防担当職員に、団員の安全管理、健康管理のあり方を学ぶ「安全

管理セミナー」と消防活動の現場に潜む多種多様な危険に対する感受性を磨く「S-KYT研修」を実際に体験いただくことにより、各町村においてより幅広く災害防止事業を実施していただきたいという思いから、消防担当職員を対象として両研修を実施したところでございます。

3 安全管理セミナー及びS-KYT研修を開催して

消防団員等公務災害補償等共済基金から藤津誠氏、吉原伸二氏の両指導員を講師に迎え、安全管理セミナー及びS-KYT研修を平成26年10月2日に開催しましたところ、県内15町村の消防担当職員16名が参加しました。

安全管理セミナーでは、消防団員の公務災害の全国的な発生状況と推移並びに災害の具体的な事例に基づく予防策などについて説明するとともに、消防活動の現場には多種多様の潜在的な危険要素が数多くあることや、日頃の団員自身の健康管理が非常に重要であることを説明いたしました。

S-KYT研修では、参加者16名が3グループに分かれてグループ討議を行い、消防団危険予知訓練のDVDを用いた講義のほか、指差し呼称やタッチ&コール、潜在する危険を事前に予知する訓練などの実技指導を行いました。

参加者からは「団員の意識統一につながる」「指差し呼称をすることにより行動が頭で整理される」「物事にはさまざまな見方があると感じた」などの感想が寄せられました。

4 今後の取組について

消防団員は、危険の迫る災害現場にあって地域を守るという崇高な理念のもと、昼夜を問わず地域住民の安心・安全な生活のために活動しておりますことは御案内のとおりでございます。

また、近年急激かつ大規模化する自然災害の発生や自治会活動の脆弱化に伴う地域の連携の希薄化など、消防団員の必要性が以前にも増して重要

になる一方で、消防団員の高年齢化や団員数の減少など消防活動を取り巻く環境はたいへん厳しい状況にあり、団員の確保が喫緊の課題となっております。

つきましては、当組合は今後とも公務災害防止事業等を実施し、消防団員が安心して職務に精励できるよう、消防団活動を側面から積極的に支援してまいりたいと考えております。



講師による指差し呼称実演の様子



全員での指差し唱和の様子



班ごとの指差し唱和の様子



タッチ&コール(重ね型)の様子